幼稚園における感染症対策について

新型コロナウイルス感染症については、いまだ収束の見込みが立たない状況ですが、本園では、幼児が健康、安全に幼稚園生活を送り、充実した教育活動を行うことができるよう感染症拡大防止に努めております。現在の状況下においても学校教育が継続されるのは、学校・園が保護者や地域の皆様とともに取り組んできた対策の積み重ねが評価を得ているためと考えられます。保護者の皆様にはご協力いただくこともございますが、幼児の健康で楽しい園生活のため尽力してまいりますので、何卒ご理解をいただけますよう、お願い申し上げます。

＜園における感染症対策について＞

〇北区立学校等おける「新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン」に沿って対応します。

幼児への指導は、ガイドラインに従うとともに感染症拡大の状況を踏まえながら、幼児の発達段階や実態に応じた方法で行います。

〇感染症予防のための環境の工夫

座席間の距離を空ける、密にならないよう印を付ける、トイレや水道にパーテーションを設置する、など感染症予防の環境を工夫します。

〇丁寧な手洗い指導

活動の区切りには手洗いをします。手洗い・うがいの指導を丁寧に行います。各学級の水道に泡ハンドソープを設置します。これにより、石けんを泡立てることが苦手な幼児も、よく泡立ててしっかり手を洗うことができるようにしていきます。

うがい後に水を吐き出す際は、水がはねないよう、静かに低いところから吐き出すよう指導していきます。ご家庭でも同様のご指導をよろしくお願いいたします。

〇衛生に配慮したマスクの扱い

外したマスクを清潔に保てるよう、マスク専用ポケット『マスク入れ』を用意しています。マスクを外したときは、マスク入れに入れるよう指導します。

〇感染症対策をしながらふれあいを楽しむ工夫

感染症防止に努めながら、園外保育も安全に楽しめるよう、手を直接触れずに「つながる」ことができるアイテムを用意しています。幼児は『カッチ』と呼んでいます。

〇適切な換気及び二酸化炭素濃度センサーの活用と適切な室温・湿度管理

各保育室の窓を２方向以上開け、室内換気を行います。二酸化炭素濃度センサーを活用しながら、適切な換気に努め、室内の気温、湿度を保てるよう取り組みます。また、二酸化炭素濃度センサー気温、湿度は、登園前、午前、午後各一回ずつ記録し、換気と温湿度の状況を確認します。

〇手を触れる場所の消毒

登園前、午前、午後各１回ずつ水道栓、トイレのレバー、出入り口の取っ手、門扉など、人の手が多く触れる場所を１日３回消毒します。幼児も水道を使ったら、最後に水道栓を水で流すという指導を継続していきます。また、ままごと遊具、ぬいぐるみなど共有で使う物は、衛生面に配慮するとともに、遊びで使用する前後に手を洗う（必要に応じて消毒する）指導を行います。

〇日中の幼児の検温

急な体調の変化にいち早く気付けるよう、昼食の前後など、日中にも一日一回非接触型温度計で幼児の体温を測ります。この他の時間帯でも体調の変化に気付いたときには、その場ですぐに対応し、状況をご家庭に連絡いたします。

〇来園者の検温の徹底

業者等も含め保護者以外の来園者も、門にて検温をし、熱がないことを確認した上で園内に入っていただきます。未就園児の会に参加される方も来園前の検温あるいは入口での検温にご協力いただきます。

〇教職員の体調管理

教職員も毎朝検温をしてから出勤し、体調管理に努めます。

＜お願い＞

〇毎朝検温をし、お子さんの体温は健康観察表に記入の上、登園の際にお持ちください。

〇保護者の皆様も、各ご家庭で来園前に検温をお願いいたします。体調がすぐれない場合は来園をお控えください。親子とも発熱や風邪症状がある場合は、自宅での休養をお願いいたします。

〇ご家族に発熱した方がいる場合は、医師の診断により発熱の原因が分かるまで、もしくは完全に快復するまでは登園をお控えください。風邪症状であっても、続いたり悪化したりする場合は医師の診察を受けてください。

〇ご家庭でも、手洗い・うがいの指導をお願いいたします。爪は短く切っておきましょう。

〇園内にお入りになる際は、マスクの正しい着用と手指の消毒をし、保護者の方同士も密を避け、適切な距離をとってください。

〇予備のマスクをリュックの前ポケットに入れておいてください。

〇取り違え防止のため、マスクには記名をお願いいたします。

〇マスクの着用については、自分と周りの人の体を守るために必要なものであることを、ご家庭でもお子様に話しておいてください。

〇緊急事態宣言発出（及びまん延防止等重点措置適用）中は、保護者の方はできるだけお一人でご来園くださいますようご協力をお願いいたします。また、保護者の方同士の打ち合わせなどもできる限り縮小してください。